

知恵は神の友と預言者を育成する

——旧約聖書続編「知恵の書」をひもとく



司祭 ヨハネ 井田 泉

2017年7月23日 奈良基督教会

2017年7月25日 奈良朝禱会

旧約聖書続編に「知恵の書」という書物があります。「ソロモンの知恵」とも呼ばれるものですが、あまり触れる機会がないかもしれません。今日は、この「知恵の書」をひもといてみたいと思います。

この書物は、エジプトのアレクサンドリアのユダヤ人によって書かれたと言われます。イエスさまの誕生より 50 年前から 100 年前くらいの間にかかれたそうです。

まず冒頭はこう始まっています。

**「1:1 国を治める者たちよ、義を愛せよ、
善良な心で主を思い、
素直な心で主を求めよ。」**

これは今の日本の為政者、政治家に聞かせたい言葉です。不正、ごまかし、欲望、そして戦争するための国づくり……。どこに義があるのか。どこに善良な心があるのか。

「義」とは、神さまが願われるところを求め、それに従って生きることです。

知恵の書 14 章は、神に背く人間と社会のあり方を次のように厳しく指摘しています。

「14:25 流血と殺害、盗みと偽りが至るところにあり、

墮落、不信、騒動、偽証、
26 善人への迫害、恩恵の忘却、
魂の汚染……が至るところにある。」

5章ではこう語られます。

「5:1 裁きの時、神に従う人は、
大いなる確信に満ちて立つ。
彼を虐げ、彼の労苦をさげすんだ者どもの前に。
2 彼らはこれを見て大いなる恐れに捕らえられ、
思いもよらぬ彼の救いに茫然自失する。」

知恵の書はこのように、悪い力が支配している世界の中で、神に従って生きようとして虐げられている人々を励まします。

ところで「知恵の書」で関心を引くのは、神の知恵は単なる賢さとか博識とか、神への従順な生き方に留まりません。知恵自らが主体となって自由に力強く働く、知恵自身が活動するのです。

「6:16 知恵は自分にふさわしい人を求めて巡り歩き、
道でその人たちに優しく姿を現し、
深い思いやりの心で彼らと出会う。」

知恵は優しさと愛をもって、わたしたちを求め、わたしたちと出会おうとしているのです。

「7:25 知恵は神の力の息吹、
全能者の栄光から発する純粋な輝きであるから、
汚れたものは何一つその中に入り込まない。……
27 知恵はひとりであってもすべてができ、
自らは変わらずにすべてを新たにし、
世々にわたって清い魂に移り住み、
神の友と預言者とを育成する。」

「知恵は神の力の息吹、全能者の栄光から発する純粋な輝き」。

知恵の働きは聖霊の働きです。

知恵は「世々にわたって清い魂に移り住」む。一時的ではなく、
世々にわたり時代を貫いて清い魂に移り住む。清い魂に住まい宿
った知恵は、その人を支えるだけではありません。その人を育む。
成長させるのです。

「(知恵は) 神の友と預言者とを育成する。」

ひょっとしたらわたしたちは神に背き、神に敵対していたかも
しれません。けれどもそのわたしたちを神が清めてくださるなら、
知恵が「すべてを新たにして」くれるなら、知恵はわたしたちを
「神の友」として育んでくれるのです。イエスが「わたしはあな
たがたを友と呼ぶ」(ヨハネ 15:15) と言われたように。

また知恵は「**預言者を育成する**」。神の言葉を聞き、神の言葉を伝える人——預言者です。今の教会がほんとうに必要としている存在はこれです。それを知恵は育成してくれる。この神の知恵が働く神学校、神学教育がぜひとも必要です。

ところでこのような知恵、「**清い魂に移り住み、神の友と預言者を育成する知恵**」は、実際にそのとおりに、ある方のうちに決定的に宿り、働きました。

ルカ福音書はこう伝えています。

「2:40 幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。」

あの知恵は、イエスさまのうちに宿って、イエスさまを育んだのです。

やがて成人して公にイエスが活動されるようになったとき、イエスを慕い求める人たちと、その反対にイエスを嘲り迫害する人たちに分かれました。ある人々はイエスをあざ笑ってこう言ったのです。

「見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ。」**マタイ 11:19**

しかしマタイ福音書はその直後に、こういう言葉が続きます。

「しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

これはマタイ福音書記者が自分の理解をはっきりと書き付けたのか、あるいはイエスさま自身が、ご自分のうちに宿り生きて働く神の知恵をはっきり知っておられて、そとつぶやかれたのか、いずれかはわかりません。しかし明らかに、イエスさまのうちに、「知恵の書」に描かれていたあの神の知恵が、はっきりと働いていたのです。

イエスさまのうちに宿り、イエスさまを神の友、預言者として育成したあの知恵が、いくぶんかでもわたしたちに宿り、わたしたちを育ててくれたらどんなにいいでしょうか。

そう思って知恵の書を読んでいると、こういう言葉に出会いました。

**「7:7 わたしは祈った。すると悟りが与えられ、
願うと、知恵の霊が訪れた。」**

何となく、そうであればいいのに、で留まってはなりません。はっきりと知恵の霊を祈り求めるべきなのです。——そのようにしてください。悟りを与えてください。知恵の霊がわたしを訪れてください。この祈りは必ず聞かれます。

今日は「知恵の書」の印象的な箇所をご紹介しますとともに、それがイエスさまにおいて決定的に事実となったこと、またそれは

わたしたちにも与えられるはずであることをお話ししました。

「知恵の書」の最後の言葉を聞きましょう

「19:22 主よ、あなたはすべてにおいて民を
大いなる者とし、栄光を与えられた。
あなたは、彼らを見捨てず、いつでもどこでも
彼らの傍らに立っておられた。」

神さま、わたしたちを見捨てず、いつでもどこでもどんなときでも、わたしたちの傍らに立っていてください。あなたの知恵の霊をわたしたちに注いでください。わたしたちのうちに知恵の霊を宿らせて、わたしたちを育ててください。愛と真実と義をもって歩む者としてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン